

授業科目	保育実習Ⅱ	2単位	選択	実習	2学年前期	担当 教員	池田正雄 三沢徳枝	松浦信二 佐藤高博		
授業の概要	① 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育士の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携等）を理解する。 ② 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 ③ 子どもの理解に基づいた計画の立案と実践、評価、反省までを体験的に学ぶ。 ④ 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 ⑤ 大学での学習に加えて、実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。									
到達目標		学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。		◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育についての理解を深める。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4. 保育の計画、実践および自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5. 保育士の役割、業務内容および職務倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照										
〈実習の内容〉 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって保育が行われていることについて理解を深める。 (2) 保育所の社会的役割と責任を理解する。 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動を観察する。 (2) 保育士等の動きや実践を観察し、生活の流れや展開の方法を学ぶ。 3. 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育や、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解する。 (2) 入所している子どもの保護者および地域の子育て家庭への支援がどのように行われているかを知る。 (3) 地域社会との連携についての理解を深める。 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価を行う。 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行い、保育の過程を理解する。 5. 専門職としての保育士の役割と職務倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務および職務倫理について理解を深める。 (2) 保育所の職員間の役割分担や連携のあり方について理解を深める。 6. 自己の課題の明確化 										

〈実習の形態・方法〉

○責任実習（部分・1日）

- ・発達段階や個人差に配慮し、適切な対応の仕方について理解を深める。
- ・保育技術や方法などについて指導を受けた内容は、振り返りを行い改善に努める。
- ・担当保育士の指導のもとに指導案を作成し、保育を実践する。計画は保育の流れに合わせ、柔軟に対応できるようにする。
- ・主活動は月齢や年齢に応じ、保育所の方針や季節に合わせた内容を考える。
- ・責任実習の実施においては、デイリープログラムを把握し、事前に教材の準備や実技練習を行う。

〈留意点〉

○実習全般について

- ・実習する保育所の保育方針・目標を理解する。
- ・実習生として何をすべきかを的確に判断し、機敏に行動する。
- ・各年齢の保育室の環境構成について理解する。
- ・各年齢のデイリープログラムを踏まえて、発達支援や遊びの展開方法を理解する。
- ・3歳児未満の生活支援（授乳・排泄・オムツ替え・食事・午睡など）の方法の理解を深める。
- ・デイリープログラムを踏まえて、子どもの姿を観察し、記録する。メモを取るにあたっては、保育の流れの妨げにならないように注意する。
- ・常に課題と問題意識をもって取り組む。
- ・保育所の職員間のチームワークのあり方や保護者との連携の取り方を観察し、その方法を理解する。

○責任実習（部分・1日）について

- ・積極的に子どもと関わり、子どもの実態を理解するように努める。
- ・屋内外の環境整備・構成等に込められた配慮や工夫を学ぶ。
- ・早朝保育や延長保育等の実際を知り、保育士間の連携の実際を知る。
- ・基本的な生活習慣（衣類の着脱・給食・おやつ・午睡・手洗い・排泄など）の支援は子どもの発達段階に応じて適切に行う。
- ・自由遊びについては、子ども一人ひとりに応じた子どもたちとの関わりや遊びの展開を行う。
- ・責任実習の指導案作成では担当保育士の指導のもとに、年齢、人数、デイリープログラムに合わせた主活動を考え、事前に教材の準備や実技練習を行う。
- ・天候の変化や子どもの興味・関心に応じてプログラムに柔軟性を持たせる。
- ・責任実習実施後は、担当保育士からの助言を受け、自らの課題について整理し明確化する。

成績 評価	実習先の評価(50%) 日誌・記録等(50%) 合計100%		
教員 から の コ メ ン ト	<p>① 実習中は体調管理に注意し、10日間遅刻や欠勤をしないように取り組んでください。また、報告、連絡、相談を徹底し、保育所・大学・保育実習指導Ⅱの担当指導教員との連携を大切にしてください。</p> <p>② 挨拶、礼儀、マナーを守りましょう。</p> <p>③ 明るく、素直に、元気良く、積極的な姿勢で実習に臨みましょう。</p> <p>④ 実習の際には、実習指導資料を常に傍に置き、参考にしましょう。</p>		
教科 書	書名 著者 発行所	推薦 図書	書名 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型 認定こども園教育・保育要領 著者 発行所 チャイルド本社